

INGING NEWS PAPER

Vol.

2

2020

Take Free!

SUPER FORMULA 2020 JMS P.MU/CERUMO・INGING Race Report

NEXT RACE Round 2. 岡山国際サーキット 9.26 SAT / 27 SUN

Chapter.2

熱戦の火ぶたは
切って落とされた

INTERVIEW

■ チーム監督 立川 祐路

「坪井と39号車の

ポテンシャル」

■ 38号車 ドライバー 石浦 宏明

「苦しい状況から見えた

次戦への課題」

■ 39号車 ドライバー 坪井 翔

「わかってきた

SF19の扱い方」

RACE ARCHIVE

大波乱の開幕戦

HERE WE GO! GO!

レースアーカイブ: Round.1 ツインリンクもてぎ

コロナ禍によるシリーズ延期

いよいよシリーズが開幕!!



RACE ARCHIVE

レースアーカイブ
Round.1 ツインリンクもてぎ

HERE WE GO! GO!

2020年、いよいよ
シーズンが開幕!

2020年シーズンが開幕! 8月29日(土)~30日(日)、ツインリンクもてぎ(栃木県芳賀郡)にて、観客を動員し三密を避けソーシャルディスタンスを保つなどのコロナ感染対策が施された環境の下、待望の開幕戦が開催された。チームは昨年同様の監督、ドライバー、エンジニアの布陣で臨む。



関係各所の尽力のおかげでようやく開幕に至ったシリーズ初戦は、コロナ禍という状況もあり、感染対策のロードマップに準拠した協力をチームも全力で行った。シーズンがリスタートし、改めてクルマづくりからスタートしたレースウィーク。金曜日は公式テストとして走行セッションが2回行われたが、2台は上位に食い込むなど、昨年の不調を払拭する順調な滑り出しでシーズンをスタートした。今大会は予選・決勝を一日で済ませるワンデー開催、決勝の距離の短縮など異例のスケジュールが組まれ、ようやくシーズンのスタートラインについた。

時はきた。
石浦、坪井
Q3通過
となるか

Chapter.2

熱戦の火ぶたは
切って落とされた

予選 8/30 SAT
天候:晴れ/コース状況:ドライ

開幕戦のQ1は、コース上の混雑を避けアタック出来るよう2グループに分けられた。今季は昨年よりも2台多い、合計14台がQ2へ進出する。まずAグループとなった坪井からスタートし、10分間のセッションの半分の時間が過ぎようとした頃、全車がコースイン。1分31秒877のトップタイムで通過し好調さをアピールした。Bグループとなった石浦は、残り4分でコースインすると、1分31秒884で6番手、思いのほかギリギリの通過となった。2台揃って進出したQ2は、8台がQ3へ進出。石浦は5番手で通過したものの、坪井は渋滞にハマり、前のクルマがスタートするまでの間にタイヤの温度や内圧も下がり、タイヤのピークを出せず12位となりQ2敗退となった。Q3へ進出した石浦は6番手のタイムを刻む。最終的に、公式予選は、石浦が6位、坪井12位で終えた。

決勝 8/31 SUN
天候:晴れ/コース状況:ドライ

灼熱地獄の中
波乱の決勝へ

決勝レースは、35周(1周:4.801km x=168.035km)。最大70分間の設定。グリッドウォークが始まる頃には、気温40度、路面温度46度と、まだまだ盛夏のうだるような暑さ。路面も焼けつくような灼熱地獄の中、熱戦の火ぶたは切って落とされた。

39号車坪井はスタートで他車を抜いて1コーナーへ進入。スタート時の混乱の集団の中で石浦が失速していたので前へ出ると、その前の他車を3コーナーでアウトから抜きに行ったもののコーナー出口ではじき出され、行き場を失いブレーキ。他車の右リアがこちらの左フロントに接触、ホイールが割れタイヤがバーストしてしまい、そのままリタイヤとなった。38号車石浦は、オーブンクラップの交錯による混乱で行き場を失い失速。その後、2コーナーで押し出され大きくポジション落とし最大11番手まで後退。その後、後続にパスされ12番手となる。気を取り直して走行するも、5番手以下石浦までがずらりと連なり膠着状態が続く。レースが折り返してから、上位陣に変化が。ピットインを敢行するクルマやトラブルにより後退するクルマがあり、12番手から10番手、8番手とポジションを上げチェッカーを受けた。



INTERVIEW

石浦 宏明 38号車 ドライバー

予選前のフリー走行で思ったようなタイムが出ず、ハマっている状況になってしまいました。予選に向けてセットアップを変更し、Q1は通るだろうという判断で行ったものの6番手と余裕のない状況で通過しました。Q2でクルマのバランスを換え、Q2で落ちたらノーチャンスになるので、ドライビングも頑張ったところでQ2通過。僅差でしたが流れが変わりました。ただアジャストした成果があまり出ないQ3でした。コンマ1あがれば3位のはずなのですが、Q3に残ったのは良かったのですが、このもてぎはこれまで2勝、ポールポジションも獲得している得意のコースなので、Q3に残って喜んでいる場合ではないとも思いました。決勝は、スタートは練習から良くて本番でも良いけり出したのですが、前でスタートをミスしているクルマが4台くらいいて、4ワイドになっていました。そ



その後2コーナーで押し出されてしまったので、失速し一気にポジションを落としてしまいました。しかし、次のレースに繋げる為、そのまま一生懸命走りましたが、ペースの遅い集団の中にも関わらず、離されてしまうこともあり苦しい状況でした。オーバーテイクシステムのボタンを押すなどして頑張ったのですが、抜くに至るような状況にはなりません。課題も見えたので次のレースに活かしていきたいと思っています」

坪井 翔 39号車 ドライバー

予選は、Q1をトップタイムで終えることができ、速さもあったと思います。そんな中で、Q2は、最終コーナーで渋滞してしまいました。みんなが行くのを待って一番最後のアタックになってしまったので時間も15秒くらいロス。タイヤの表面温度も内圧も下がり、グリップも発動せず、タイヤのピークを出せませんでした。それがなければ2列目くらい(グリッド)に行けたのではないかと思います。そこから悪い流れが始まりそれがすべてでした。決勝は、スタートで1号車を抜いて、1コーナーに入って行きました。

混乱の中で石浦選手が失速していたので抜いて、その前の18号車を3コーナーでアウトから抜きに行き、出口ではじき出され、行き場がなくなりブレーキを踏んだのですが、向こうの右リアがこちらの左フロントに接触、タイヤがバーストしてホイールが割れ走れなくなりました。そもそも予選でこの位置にいるのが良くないと思っています。昨年、ドライでとても苦労しましたが、今回は速さがあっただけにとても残念な結果です。SF19の扱い方もわかってきたし、ポジティブな事もあったので次戦に繋げ頑張りたいと思います」



立川 祐路 チーム監督

石浦の38号車は、正直、今朝のフリー走行まであまり良くなく苦戦気味でした。しかし、予選を経ていくうちに、良くなっていて、朝のことを考えると6番グリッドは上出来だったと思います。

スタートで集団の中に入ってしまう、順位が落ちていってしまったのが残念です。坪井が、Q1トップと、昨日今日と順調に来ていたのでわりと前に行けるかと思ったら、Q2では前にクルマが沢山いて、自分のペースでアタックできなかったですね。ほんのちょっとした事が響いてしまうのですが、予想外の下位のグリッドでした。次戦以降、ポジション取りを考えないといけないと思います。チームの成績が昨年良くなかったのも、ピットの位置も後方になり前に沢山のクルマがいます。その対処を考えないといけません。スタートが中段だったので、ほかのクルマと接触してタイヤがバーストしてしまいました。今朝までの様子を考えると非常に残念な結果です。しかし、坪井と39号車のポテンシャルは、良いというのが見て取れたのでそれは良かったです。チームとして厳しい初戦でしたが、次戦に向けて何か策を練らないと厳しいと思っています。今季がようやくスタートしました、コロナの影響で例年とは違うレース形式となりますが、引き続き応援よろしくお願致します」

Results #38 石浦 宏明 予選 6位 決勝 8位 #39 坪井 翔 予選 12位 決勝 リタイア

総評

走り出しの良い感触のまま予選・決勝へと進めなかったことが大きく悔やまれる初戦だった。昨年、クルマ、タイヤが新しくなり苦しんだシーズンから、大きく変化。次戦は、この進歩を感じるリザルトをぜひ残したい。まだまだコロナの影響がある環境下ではあるが、お客様の前でレースができる喜びを力に変え戦っていききたい。今季も応援よろしくお願致します。

To be Continued...